安定供給のために体制の強化に全力で取り組んでいます

（本記事は2012年３月末時点の情報に基づいています）

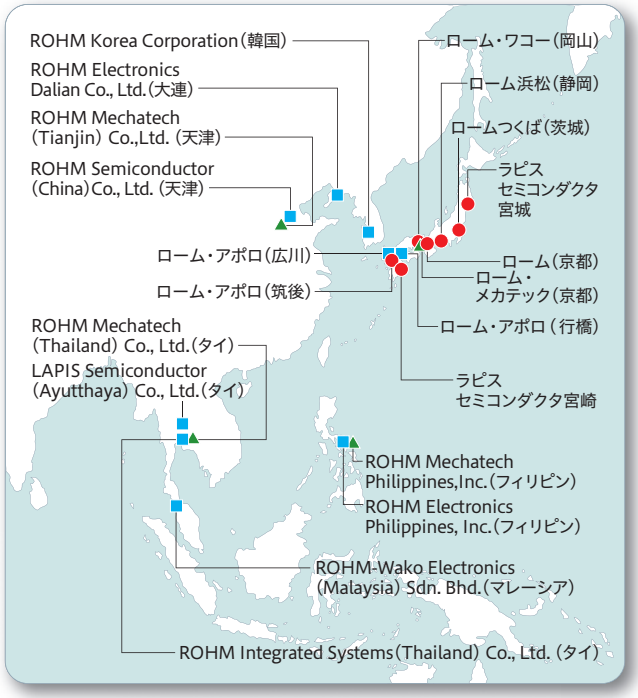
代替生産のため日本のローム・アポロ株式会社に出張して働くRISTの社員

大規模自然災害の影響――タイ洪水による一部生産拠点操業停止からの回復に注力、東日本大震災の被害からは早期に回復

2011年10月、タイの洪水によってロームグループのROHM Integrated Systems (Thailand) Co., Ltd.（以下、RIST）と、LAPIS Semiconductor (Ayutthaya) Co., Ltd.（以下、LSA）、ROHM Mechatech (Thailand) Co., Ltd.（以下、RMT）の3拠点が浸水被害を受けました。人的被害は発生しませんでしたが、生産設備が水没したため操業を停止しました。10月8日に対策本部を設置し、RISTにおいて懸命の復旧作業を進めた結果、11月中旬から一部生産を再開することができました。同時に、ROHM Electronics Philippines, Inc. など他の生産拠点での代替生産を行いました。また、LSAに関しては、ラピスセミコンダクタ宮崎株式会社などでの代替生産を進めました。この結果、2012年1月には、操業停止前の通常の供給量を確保することができました。

なお、2011年3月11日に発生した東日本大震災に関しては、ロームグループではラピスセミコンダクタ宮城株式会社（当時の名称はOKIセミコンダクタ宮城株式会社）とロームつくば株式会社の2社が被災しましたが、ロームつくばでは3月下旬に、ラピスセミコンダクタ宮城では4月初旬に生産を再開し、生産量を回復しました。

■ ロームグループ生産拠点



● 前工程（FAB）生産拠点　■ 後工程（ASSY）生産拠点
▲ 金型・リードフレームの生産拠点

■ タイ洪水で被害を受けた主な生産拠点

ROHM Integrated Systems (Thailand) Co., Ltd.
（タイ・ナワナコン工業団地）

10月15日　・操業停止
10月20日　・工場建屋に浸水
10月23日　・金型、部品等の取り出し開始
11月16日　・一部生産を再開

LAPIS Semiconductor (Ayutthaya) Co., Ltd.
（タイ・ロジャナ工業団地）
（2012年1月 閉鎖決定）

10月 8 日　・操業停止
10月10日　・構内に浸水、工場が平屋であり、今後の洪水被害再発リスクを考慮し、ラピスセミコンダクタ宮崎株式会社など他拠点での代替生産を実施

ロームの約束

グループ全体で安定供給体制を強化してまいります

ローム株式会社　常務取締役生産統括本部長　**山葉 隆久**

お客さまに、ご不便・ご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします

「われわれは、つねに品質を第一とする。いかなる困難があろうとも、良い商品を国の内外へ永続かつ大量に供給し、文化の進歩向上に貢献することを目的とする。」という企業目的を掲げるロームグループにとって、お客さまに供給責任を果たすことは、極めて重要な使命です。

しかしながら、2011年に発生した東日本大震災とタイの洪水では、ロームグループの生産拠点が被災し、操業停止に陥りました。お客さまをはじめとするさまざまなステークホルダーの皆さまからご支援をいただきながら、ロームグループの総力を挙げて対応に努めました。しかしながら、生産量を回復させるまで、お客さまに多大なご不便・ご迷惑をおかけいたしました。あらためてお詫びを申し上げます。

ロームグループのすべての生産拠点を対象とするリスク診断を実施しました

ロームグループでは、今回の事態を重く受けとめ、グループを挙げて安定供給体制の強化を図っています。そのために、まずロームグループの国内外全生産拠点を対象とした「リスク診断」を実施しました。

地震や津波、台風、竜巻、落雷、洪水、豪雨、霧・黄砂・大雪などの自然災害はもちろんのこと、火災や爆発、政情不安、インフラ問題、材料の供給停止、そして伝染病に至るまで、あらゆる観点からリスクを徹底的に洗い出しました。

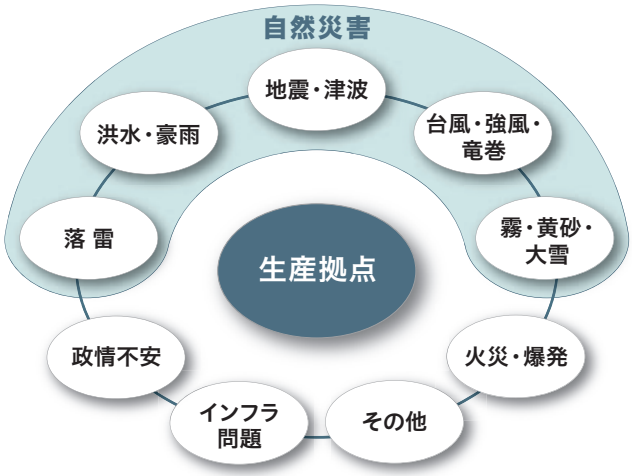
操業停止期間を短期化するための対策と在庫の積み増しを実施しました

リスク診断の結果に基づいて、ロームグループの各生産拠点では、これまでに実施してきた建屋の耐震化などの対策に加えて、洪水に備えて受電設備などの設置場所をかさ上げするなど、操業停止期間を短期化するためのさらなる対策を進めています。

数人が水に浸りながらボートを押さえて金型を搬出（RMT）

東日本大震災で被災したラピスセミコンダクタ宮城株式会社の復旧作業（クリーンルームの復旧）

■ リスク診断における診断項目



また、生産の一極集中リスクを避けるために「同一製品の複数拠点生産」を徹底することも決定しました。製品の金型を複数の拠点で保有するなどして同じ製品を複数拠点で生産できる体制にします。

さらに、各生産拠点が万一操業停止に陥り、操業を停止している期間内においても、お客さまへの製品供給が滞ることがないよう必要在庫を積み増すこととしました。

ロームグループ一丸となって お客さまに対する供給責任を果たしていきます

今回の経験は、ロームグループにおいて安定供給のための体制や設備を強化するための大きな契機となりました。また、そればかりでなく、ロームグループが一丸となって危機に立ち向かうことの重要性を再認識する機会ともなりました。社員一人ひとりが危機感を持って「頑張らなければ」「協力しなければ」と考え、「組織の壁を越えて一致団結して動く」ことを今後も継続していきたいと考えています。

お客さまに対する供給責任を果たしていくために、ロームグループでは今後も体制面、設備面での対策を強化しながらグループ一丸となって努力し続けることをお約束します。

グループ一丸となって復旧に取り組んだことに対してタイのインラック首相からねぎらいのお言葉をいただきました。

タイ投資委員会主催のパーティー（2012年1月17日）にて

タイで洪水対策を 着実に進めています

ROHM Integrated Systems (Thailand) Co., Ltd.
社長
南 比呂志

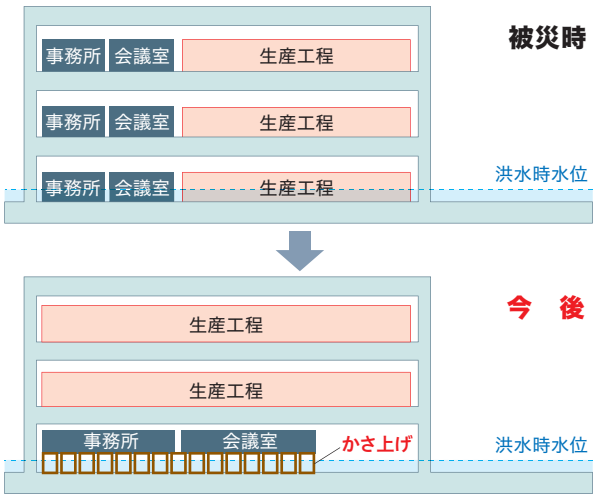
今回の洪水を受けて、RISTが立地するナワナコン工業団地では洪水対策を強化しています。その一環として、地中7m、地上3.5mの高さの止水壁が工業団地の周囲に建設されることとなり、2012年8月には完成する予定です。さらに、私たち独自でも、生産工程を上層階に集中させ、あわせて工場の受電設備やインフラ関連装置設置エリアをかさ上げするなど、万一建物内に浸水があっても稼動を続けられる体制の整備を進めています。

タイは自動車産業の集積地でもあり、自動車分野の売上高比率を高めていくというロームグループの成長戦略上、非常に重要な地域です。今後も洪水リスクの低減に努め、お客さまへの供給責任を果たしてまいります。

■ RISTの洪水対策

- 生産工程の上層階への集約
- 工場の受電設備などの設置場所のかさ上げ
- 工場棟の周囲への止水壁の設置

■ 生産工程の上層階への集約



電力・水の供給停止に備えて対策を進めています

ラピスセミコンダクタ宮城株式会社
代表取締役社長
松本 宗之

東日本大震災が発生した2011年3月11日、ラピスセミコンダクタ宮城株式会社では、地震発生直後から電力や工業用水などの供給が止まったため、生産停止を余儀なくされました。幸いにも人的被害はなく、設備の被害も軽微であったため、公共インフラの復旧を待って4月初旬には生産を再開することができました。

今回、公共インフラが復旧するまでに時間がかかったことを踏まえて、長期的に電力の供給が止まった場合でも自前で電力を確保できるよう自家発電設備を強化するとともに、工業用水の供給停止に備えて井戸を掘削しました。また、従来よりも耐震性の高い設備への更新なども着実に進めています。

■ ラピスセミコンダクタ宮城株式会社の地震対策

- 自家発電設備の強化（2011年7月完成）
- 給水ソース確保のために井戸新設（2012年4月完成）
- 耐震性の高い設備への更新（貯水タンクなど）
  （2005年完成。2011年3月以降、順次強化）

自家発電設備

東海地震に備えて対策を強化しています

ローム浜松株式会社
取締役
松本 康彦

ローム浜松株式会社（静岡県浜松市）では、従来から工場建屋を免震構造とするなど、さまざまな対策を講じていましたが、現在、東海地震による被害想定の見直しに伴い、対策をさらに強化しています。

ローム浜松は、海岸から6km離れていますが、現状のままでは津波による浸水の可能性が完全には否定できないため、新たに止水壁を設置しました。また、工業用水が停止した場合の備えとなる井戸の増設や、製造工程に用いる水を処理する設備の耐震補強、炉の転倒・破損防止のための補強など、さまざまな地震対策を進めています。

■ ローム浜松株式会社の追加地震対策

- 津波対策の止水壁（2012年3月完成）※
- 用水確保のための井戸増設（2012年3月完成）
- 水、薬品処理設備の耐震補強（2012年3月完成）
- 炉の転倒防止・破損防止対策（2014年3月完成予定）

※ 2012年3月31日の「内閣府 南海トラフの巨大地震モデル検討会」の津波高（第一次報告）への対応については今後指針が示されてから対応する予定です。

津波対策の止水壁設置箇所（赤線部分）